

東京2020オリンピック・パラリンピックと その先に向けた取り組み

～見ているのは『感動の先にある未来』～

2017年10月24日

東京ガス株式会社



東京2020オフィシャルガス・ガス公共サービスパートナー



頑張る人に、
いいエネルギーを。

はじめに：新たなキーメッセージ



私たちが見ているのは『感動の先にある未来』です。

感動に勝る共感はないのかもしれませんが。

何故なら、感動による共感「今」を元気にし「未来」に光を与えるからです。

アスリートたちの頑張りは、理屈なしに私たちを感動させます。

2020年、そしてそこに至るまでに体験するであろう様々な感動は、間違いなくその先の未来を考える原動力となります。

私たちが見ているのは「感動の先にある未来」

それは、誰もがお互いを尊重し支え合う社会。

誰もが生き生きと安心して快適に暮らせる社会。

私たち東京ガスは、そのような暮らしや街づくりのお手伝いをしたいと思っています。

見ているのは『感動の先にある未来』

～ 頑張る人に、いいエネルギーを。～



<http://www.tokyo-gas.co.jp/tokyo2020/>



0. 本資料の発表にあたって

1. 東京2020大会の成功に向けたオリンピック・パラリンピック活動（“東京ガスだからできる活動”）の全体像

2. “東京ガスだからできる活動”（以下、本活動）の分野ごとの具体的な取り組み

- 1) 障がい者スポーツ支援 ～機運醸成への取り組み～
- 2) 豊かで快適な暮らし・街を支えるサービス提案等の事業展開
- 3) 社会全体の課題への地元企業としての取り組み
- 4) エネルギーの安定供給・セキュリティ対応
- 5) エネルギー面での先進的な取り組み

3. まとめ

0. 本資料の発表にあたって



- 東京ガスは、10/5に「2018～20年度経営計画 エネルギーと未来のために 東京ガスグループができること」を発表しました。その中でESG（環境・社会・ガバナンス）の取り組みの1つとして、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて」を掲げております。
- 本資料では、「東京2020大会とその先に向けた取り組み」の概要をお知らせするものです。

1. 本活動の全体像（1）

（10月5日発表「2018～20年度経営計画」より）



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（東京2020大会）の成功に向けて

- 東京ガスは、東京2020大会のオフィシャルパートナー（ガス・ガス公共サービス）として、首都圏でのエネルギー供給事業を通じ、地元で開催される**東京2020大会成功への貢献**に取り組んでいきます。
- 東京ガスは、東京2020大会を「共生社会*」へのきっかけと捉え、「**共生社会**」の実現に向けた取り組みを進めるとともに、東京2020大会以降も継続的かつ持続可能な取り組みとなるよう努めます。
- 東京2020大会の成功に向けて、各種活動を強力に推進していくため、「**東京2020オリンピック・パラリンピック推進部（仮称）**」を設置します。

※障がい者、高齢者、働く人、子供たち、国籍等を問わず全ての人々が、
お互いを尊重し、支え合い、生き生きと安心して快適に暮らせる社会・街

晴海地区等における
エネルギー面での先進的な取り組み

エネルギーの
安定供給・セキュリティ対応
(LNG基地・パイプライン等)

障がい者スポーツ支援
(東京2020パラリンピック成功に
向けた機運醸成等)

2020年と
その先を見据えた
“東京ガスだから”
できる活動

豊かで快適な暮らし・街を支える
サービス提案等の事業展開

社会全体の課題への
地元企業としての取り組み

共生社会の実現
地域発展への貢献

1. 本活動の全体像（2）

～目指す姿と取り組みの展開～



頑張る人に、
いいエネルギーを。

現在～（2020年に向けて）

2020年（東京2020大会）

2020年以降

大会成功への機運醸成

○障がい者スポーツ支援

- ・障がい者スポーツ観戦や体験会を通じた盛り上げ
- ・公益財団法人日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナーとしての支援

○豊かで快適な暮らし・街を支えるサービス提案等の事業展開

○社会全体の課題への地元企業としての取り組み

- ・東京2020オフィシャルパートナーとしての大会成功への取り組み
- ・働き方改革への取り組み（テレワーク等の推進）

2020年以降も見据えた取り組みを継続することで期待される成果

- 障がい者スポーツの大会等が継続的に開催・運営され、多くの人を楽しめる風土・環境へ
- 誰もが快適な暮らしの広がり
- 多様なお客さまへの適切な対応体制の整備

目指す姿

- 共生社会の実現
- 地域発展への貢献

多様性や個性を尊重する風土づくり

大会運営への支援

○エネルギーの安定供給とセキュリティ対応

- ・安定的なエネルギー供給による大会運営への支援
- ・LNG基地やパイプライン等インフラ設備のセキュリティ確保

○エネルギー面での先進的な取り組み

- ・晴海等での環境先進都市モデル事業への貢献

- 環境に優しいエネルギーシステムを含む総合エネルギー事業の展開（晴海地区等）

2. 1) 障がい者スポーツ支援 ～機運醸成への取り組み～



(1)障がい者スポーツ体験会や観戦等のイベント実施

- 障がい者スポーツ体験会の実施やグループ員を対象にした障がい者スポーツ観戦
(17年度以降も観戦応援デーの設置や、障がい者スポーツ体験イベント開催による裾野拡大への取り組みを継続的に実施)
- 新豊洲Brilliaランニングスタジアム等を活用した学校向け障がい者スポーツ体験型校外学習開催
(東京2020参画プログラム)

(2)社内の体制整備

- 所属する障がい者アスリート支援と、アスリートによる社員向け講演会等の実施によるグループ内の一体感の創出
- 職場ごとの障がい者スポーツ推進リーダーの選出
(2016年度から開始し、2017年度から対象を子会社等にも拡大)

(3)外部関連団体との連携

- 日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナーとしての各種支援 (2013年1月～)
- オリンピック・パラリンピック等経済界協議会での障がい者スポーツ支援活動推進
- 東京都をはじめとする地域行政と連携した体験・普及活動

新豊洲Brilliaランニングスタジアム
での校外学習プログラム



グループ全体での障がい者スポーツ
大会観戦・応援イベント



所属アスリートと社員家族の交流



2. 2) 豊かで快適な暮らし・街を支える サービス提案等の事業展開



(1) 共生社会をテーマにしたイベントの実施

(当社の東京2020大会1000日前イベント（豊洲、新宿））

- －他社・地域行政・組織委員会との連携
- －障がい者スポーツ普及に加え、快適な暮らしに向けたサービスを提案

(2) 豊洲エリアの施設活用と地域の発展

- －新豊洲Brilliaランニングスタジアムやがすてなーに（ガスの科学館）等を活用し、他社とも連携した取り組みによる地域の盛り上げ・活性化

(3) 誰もが快適な暮らし・街の提案とそれを支えるサービス体制の充実

- －共生社会実現に向けた暮らし方提案の推進（バリアフリーなど）
- －グループ社員によるサービス介助基礎検定資格の取得（2020年までに1,000人を目標）

イベントでの車いす体験



サービス介助基礎検定研修



2. 3) 社会全体の課題への 地元企業としての取り組み



(1) オフィシャルパートナーとしての東京2020大会成功への支援

- － ボランティア参加への対応
ボランティアへの参加機運の醸成や社員に対する積極的な参加促進
- － 東京2020組織委員会の東京2020参画プログラムへの参加による
機運醸成・文化発信
(ガスミュージアム「ガス灯館」での展示等)
- － 東京2020組織委員会「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」への
グループも含めた参画 (携帯電話4,000台以上)

(2) 働き方改革への取り組み

- － 在宅勤務制度の推進 (テレワーク等の推進)

(3) ダイバーシティの推進

- － 障がい者をはじめとした多様な人材の活躍推進

働き方改革 (在宅勤務制度等)



ガスミュージアム「ガス灯館」



2. 4) エネルギーの安定供給・セキュリティ対応



(1)大会時におけるエネルギーの安定供給

－大会時の安定的なエネルギー供給による大会運営成功への貢献

(2)セキュリティへの万全な対応

－エネルギー供給インフラ設備（LNG基地や、パイプライン、ガバナステーション等）に対するテロ等の防止への備え

－サイバーテロへの対応（国、都をはじめとする自治体、警視庁等とも十分な連携を実施）

扇島LNG基地



ガス供給の遠隔監視を行う
供給指令センター



東京ガスのLNG船
エネルギー・フロンティア



2. 5) エネルギー面での先進的な取り組み



頑張る人に、
いいエネルギーを。

- (1)低炭素社会の一層の推進に向けて、ガス事業を中心にエネルギーの面的利用や再生可能エネルギーの積極導入、IoTの活用
- (2)晴海、田町や豊洲等におけるエネルギー面での先進的な取り組み
ー晴海における環境先進都市のモデル事業への参画
- (3)競技施設等への天然ガス導入の提案
- (4)環境対応車の導入加速（2020年までに100台）
ーまずは燃料電池自動車を業務用車両に導入
ー国の水素燃料電池ロードマップ、東京都等の低公害車導入政策への貢献

将来の晴海五丁目地区イメージ



田町地区の開発（イメージ）



導入を開始している燃料電池自動車



画像提供：東京都都市整備局

まとめ



- 東京ガスは東京2020大会の成功に向けて、5つの活動分野において、さまざまな取り組みを行います。
- また、東京2020大会をきっかけとして、2020年以降も共生社会の実現に向けて、これら取り組みの継続、深化を図っていきます。

(参考) これまで行ってきた主な取り組み



頑張る人に、
いいエネルギーを。

ジャンル	主なイベント内容	時期／場所	実績
障がい者スポーツ 競技観戦	第44回日本車椅子バスケットボール選手権大会 2016ジャパンパラウィルチェアーラグビー競技大会 2016ジャパンパラ水泳競技大会 シッティングバレー日本選手権大会 ウィルチェアーラグビー日本選手権 さいたま市ノーマライゼーションカップ（視覚障がい者5人制サッカー）	2016年度	約1,300人 （グループ員・ 家族含む）
	第45回日本車椅子バスケットボール選手権大会 2017ジャパンパラウィルチェアーラグビー競技大会 2017ジャパンパラゴールボール競技大会 2017ジャパンパラ水泳競技大会 など	2017年度	約1,000人 （グループ員・ 家族含む）
障がい者スポーツ 運営ボランティア	2016ジャパンパラウィルチェアーラグビー競技大会 2017ジャパンパラウィルチェアーラグビー競技大会 など	2014年度～	約100人
障がい者スポーツ 体験会	車いすバスケットボール 社内向け体験会@本社2階 パラスポフェスタ2016@新宿パークタワー 障がい者スポーツ体験会in味の素スタジアム ユニバーサルってなーに@がすてなーにガスの科学館 など	2016年度～	約4000人 （来場者数）
共生社会に向けたイベント	体験型校外学習プログラム@新豊洲Brilliaランニングスタジアム 豊洲ユニバーサルフェスタ（2017年10月開催予定） 新宿ユニバーサルフェスタ（2017年11月開催予定）		
社内でのPR活動	障がい者スポーツ推進リーダー制度導入、研修実施 イントラネット「オリンピックパラリンピック推進室」開設	2016年度～	
社屋展示	本社ロビー、新宿・横浜ショールーム、LNG基地 企業PR館（がすてなーに、ガスミュージアム）	2016年度～	
東京2020参画プログラム	障がい者スポーツ体験型校外学習 出張授業「都市ガスが家に届くまで」（資源・エネルギー編） 障がい者スポーツ体験会in味の素スタジアム など	2016年度～	9件

(参考) シンボルマークに込めた私たちの思い



たくさんの人の暖かさや応援のエネルギーを『7つの炎』のシンボルマークで表現しました。そのエネルギーは次の誰かを動かす力となる。未来を明るく照らす炎のボタンをつないでいきたいと思っています。

本活動を通して伝えたい6つの想いと、東京2020大会でも目指している「持続可能性」を加えた様々な色で共生社会の実現に向けた私たちの想いを表現しています。

※7色に込めた思い（順序：上から）

黄：お客さまを大切にする

橙：身近な存在である

水色：多様性に配慮する

黄緑：社会貢献に積極的に取り組む

緑：持続可能性に配慮する

赤：挑戦していく

青：安心・信頼をお届けする



頑張る人に、
いいエネルギーを。